



# 一般社団法人 鹿児島県住宅産業協会 KAJUKYO

鹿住協だより Vol. 25  
2019年7月号

【事務局】  
〒890-0069 鹿児島市南都元町14-9 三洋ハウスビル3F  
TEL 099-285-0101 FAX 099-285-0122

## セミナー「ゆとりとうるおいのある住まいの実現に向けて」



本県の住宅事情や課題、県が取り組む施策を学んだセミナー

県住宅産業協会（逆瀬川勇理事長）の7月度定例会（セミナー）が7月19日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルであった。会員約50人が参加して、本県の人口・世帯数の推移や住宅事情と課題などを学んだ。

セミナーでは、「ゆとりとうるおいのある住まいの実現に向けて」と題し、県土木部建築課住宅政策室の假屋智広技術専門員らが、本県の住宅事情や課題、県が取り組む施策を説明。その中で、假屋氏は「65歳以上の高齢者がいる世帯は、総世帯数の約43%。特に高齢者単身世帯は約15%を占め、全国2位となっている」と指摘し、今後さらに上昇すると話した。

また、本県の住宅事情と課題では、「住宅には満足しているが住環境に対する評価は低い」とし、地域の居住ニーズに応じた整備の推進を解説。市町村による良質な市街地住宅の整備等や空き家の除却促進の支援など既成市街地における居住環境の改善を挙げた。このほ

懇親会で挨拶する逆瀬川理事長



か、住宅セーフティネット制度や住宅関連税制などの説明もあった。

懇親会では、逆瀬川理事長が「住宅着工戸数の減少や空き家対策など課題も多いが、より豊かな社会を目指し、住環境の整備に取り組んでいきたい。また、人口減少の中で学生の確保も見据えた設計コンペを実施することで、業界のアピールも行っていく」と抱負を述べた。

里良男副理事長の発声で乾杯。出席者は杯を酌み交わし意見交換を行うなど親睦を深めた。また、5月の総会で役員を退任した有馬洋氏（鹿児島酸素株）と関一也氏（㈲ケイエス開発）、吉野博仁氏（㈲ヨシノ企画）、久保一元氏（㈱国分ハウジング）の4人に感謝状が贈られた。



里副理事長の発声で乾杯



役員を退任した4人へ感謝状を贈呈

## 管理者（幹部）実力養成特別研修



管理者（幹部）実力養成特別研修

県住宅産業協会（逆瀬川勇理事長）は6月6日、鹿児島市の三洋ハウス本社で「管理者（幹部）実力養成特別研修」を開いた。会員12人が参加し、管理者の役割や求められる資質に理解を深め、情報感度を高く持つ重要性を学んだ。

同協会は設立5年目で、会員向け研修会は今回が初

めて。講師は、九州経済研究所の市来伸一経営支援部長が担当した。氏は「経営理念の実現には、現状を分析して計画を立てることが重要」とし、経営者とともに現場に近い立場の管理者が計画書作成に携わる必要性を解説。その上で「管理者には、高いアンテナを持った情報収集と経営者の方針に沿える知識の積み重ねが求められる」と訴えた。

このほか、ワンランク上の社員になるための論理的思考法「ロジカルシンキング」や部下育成（OJT）を成功させるポイントなどを紹介。会社の現状や外部環境を正しく捉えるためのSWOT分析の方法も指導した。

同協会の片平正博事務局長は「今後も九州経済研究所とタイアップした研修会を開催したいと考えている。会員のさらなる資質向上につながれば」と話した。

## 第4回相続カウンセラー資格取得講座および認定試験

県住宅産業協会は7月12日、鹿児島市の三洋ハウス株本社で「第4回相続カウンセラー資格取得講座および認定試験」を開催。協会員9人が参加し、相続人の定義や遺産分割、相続税などに理解を深めた。

同日の講義は、日本相続カウンセラー協会の岡田純也副会長が講師を担当。2015年に相続税法が改定され、基礎控除額の大幅減額などが行われた経緯、概要を説明した上で、効率的な相続対策の必要性を説いた。

講義終了後に実施した認定試験では9人が合格。同協会では随時、相続カウンセラー資格取得講座および認定試験を実施していく方針だ。

合格者は次の通り。

田代善久（㈱田代設計工房）中鶴直子（㈱鹿児島不動産バンク）吉岡佳子（㈱マンボウ・サービス）鶴木



第4回相続カウンセラー資格取得講座および認定試験

護（㈲ウノキ酒店）玉利由美子（㈱ベルハウジング）押川勝利（同）山口幸太郎（㈱モリ不動産鑑定事務所）西元孝寛（㈱富士土木エンジニアリング）水口里美

### 次回定例会のご案内

日時 2019年9月19日（木）19:00～

受付 18:30～

場所 鹿児島サンロイヤルホテル（鹿児島市与次郎）

懇親会 19:00～21:30